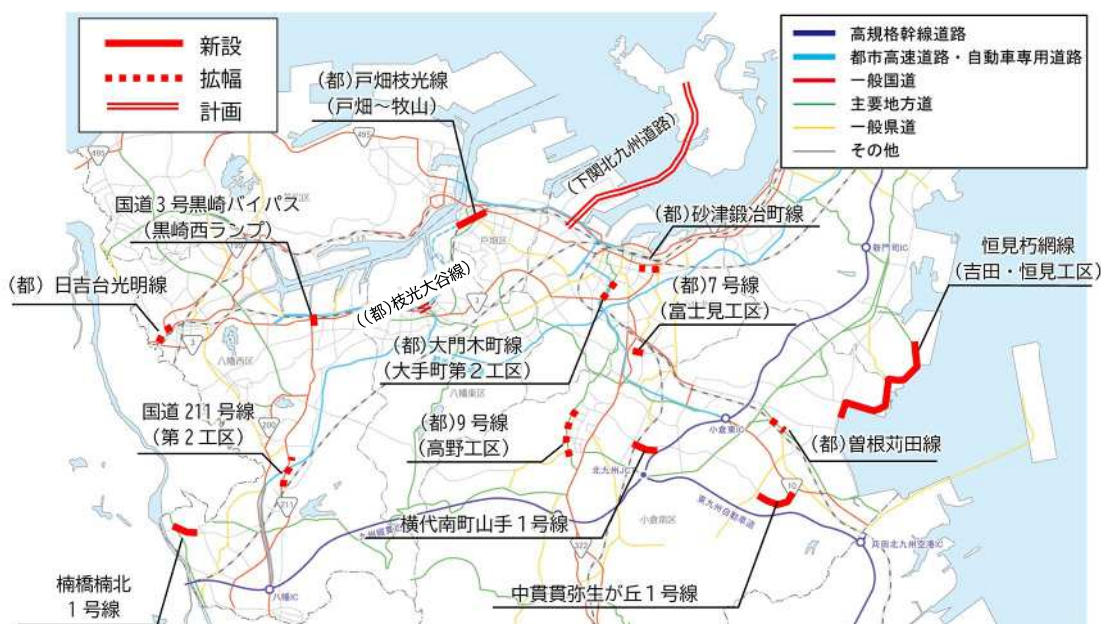


ビジョン1 企業が稼げる強靱なまちを支えるみちづくり

①企業活動や物流振興を支え、稼げるまちを形成する道路ネットワークの整備

○広域道路ネットワークの整備

また、北部九州エリア全体でメガリージョンを形成し、アジアを見据えた産業や人材の集積、観光誘客など北九州都市圏域の交流や連携を支える道路整備を推進します。



▲今後の道路整備箇所図



▲国道3号黒崎バイパス黒崎西ランプイメージCG

出典：国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所



▲戸畑枝光線イメージCG
(戸畑駅北口付近)

国道 3 号黒崎バイパス(黒崎西ランプ)、(都)戸畑枝光線(戸畑～牧山)、恒見朽網線(吉田・恒見工区)、(都)9 号線(高野工区)、国道211 号(第 2 工区)、(都)日吉台光明線 など

主な施策1-2 交差点における渋滞対策

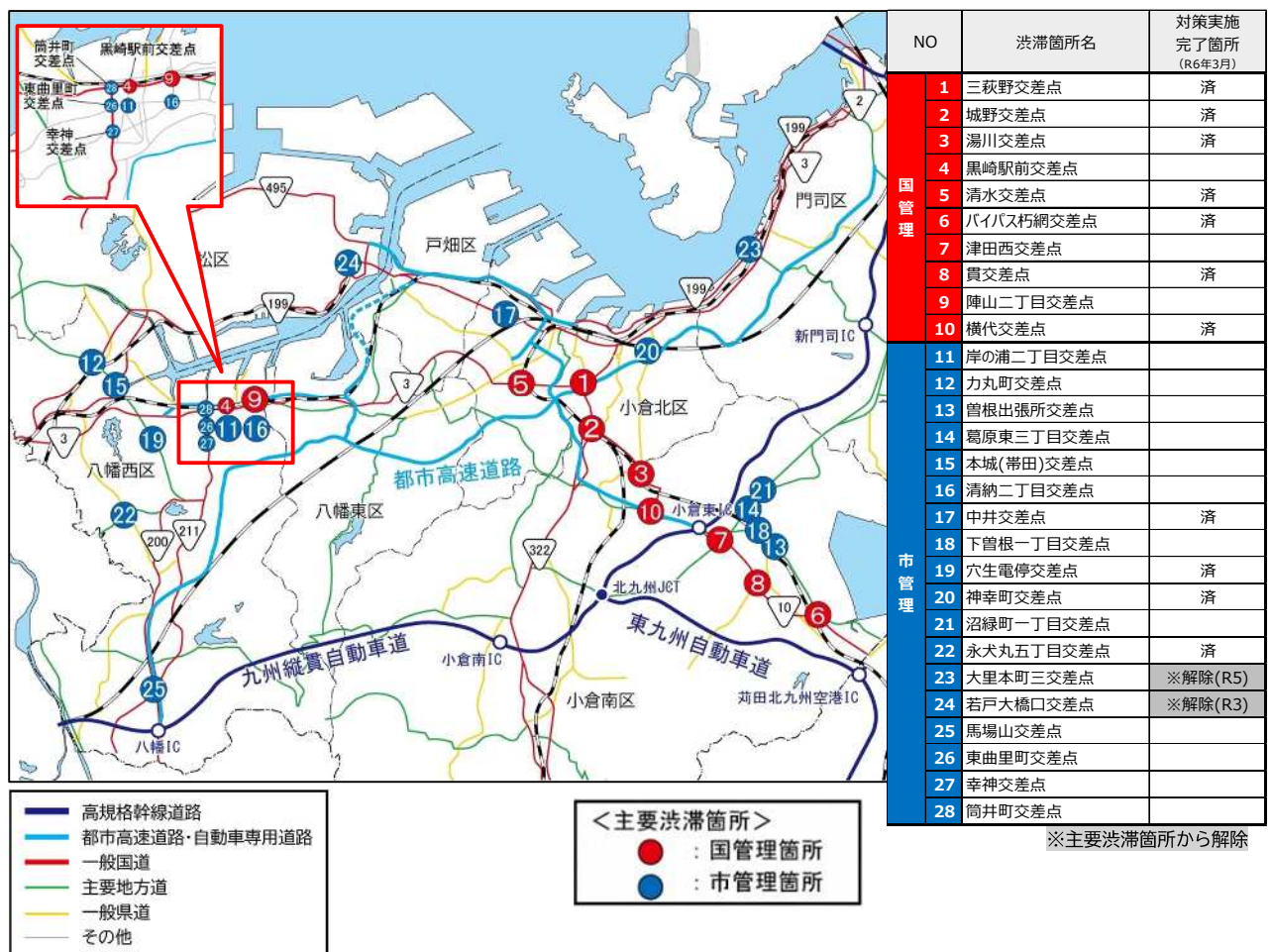
○主要渋滞箇所及び個別交差点における渋滞対策

平成25年1月に、福岡県交通渋滞対策協議会が市内28箇所(市管理:18箇所、国管理:10箇所)を主要渋滞箇所として指定しています。

これまで警察と協働して対策に取り組んでおり、引き続き、渋滞箇所の改善に向けた対策を進めます。

また、主要渋滞箇所以外の交差点においても、特に、右折車線が無い交差点では、右折待ち車両を先頭とした渋滞や右折待ち車両を無理に追い越そうとした際の接触事故等が発生しています。

そのため、右折車線の設置等を行い、渋滞緩和や事故抑制を図るための対策を進めます。



▲ 北九州市内の主要渋滞箇所

【みちづくりの方向性】

②安定的な物流確保に向けた道路施設の強靱化

主な施策1-3 若戸大橋・若戸トンネルの強靱化

○若戸大橋・若戸トンネルの強靱化



▲若戸大橋の全景



▲若戸トンネル(戸畑側通行口)

若戸大橋の安全性や信頼性を確保するため、定期的な点検を行うとともに、橋の塗り替え等の大規模修繕に取り組めます。

また、若戸大橋と若戸トンネルの重要性や必要性について情報発信(PR 活動)するとともに維持管理費用の財源確保について検討を行います。

～維持管理の基本方針～

- (1) 予防保全型の維持管理とするための管理水準を設定します。
- (2) 点検、診断、措置、記録のメンテナンスサイクルを構築します。
- (3) 定期点検の結果や対策の優先順位を考慮した長寿命化修繕実施計画を策定します。
- (4) 点検や修繕等に関する新技術等の活用検討を行い、費用の縮減や維持管理の効率化を図ります。



▲若戸大橋の損傷状況(腐食)

主な施策1-4 橋梁、トンネル、モノレール等の強靱化

○橋梁、トンネル、モノレール等の強靱化

老朽化や大規模地震などに備えて安全性を確保するため、橋梁、トンネル、モノレール等の劣化や耐震対策に取り組めます。

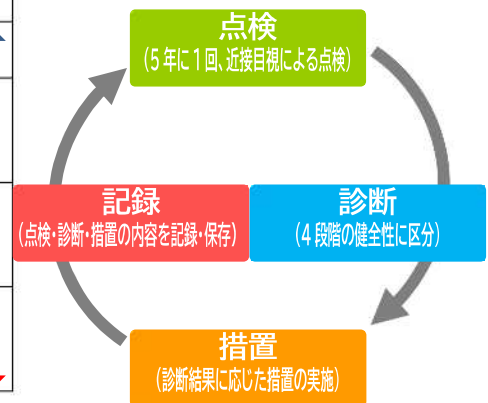
○維持管理の基本方針

予防保全型の維持管理をするために、予防保全段階(健全性Ⅱ)以上であることを管理水準とし、点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクルを構築し、継続していきます。

健全性区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

管理水準以上

管理水準以下



▲管理水準

▲メンテナンスサイクルのイメージ

○個別施設計画(橋梁、トンネル、モノレール、大型カルバート、横断歩道橋、門型標識)に基づく長寿命化対策

【予防保全工事】

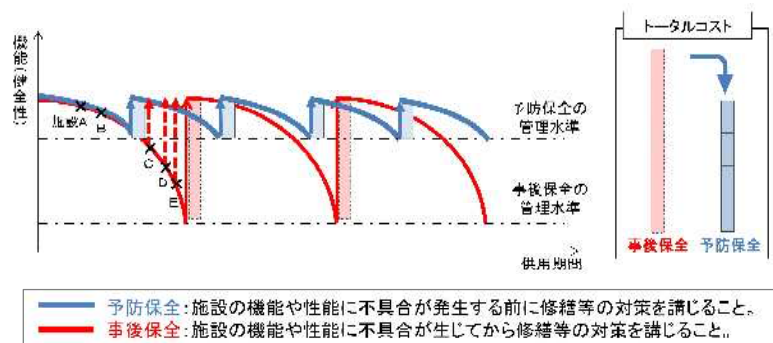
予防保全段階(健全性Ⅱ)にある施設を対象に実施する修繕工事で、損傷が軽微な段階に予防的な修繕等を実施することで機能の保持・回復を図ります。

【事後保全(リニューアル)工事】

構造物の機能に支障が生じる可能性がある早期措置段階(健全性Ⅲ)の施設を対象に実施する修繕工事で、早期に健全性を管理水準以上の状態に回復するものです。

健全性 (大臣告示)	I	II	III	IV
	健全	予防保全段階	早期措置段階	緊急措置段階
対策の分類	監視	予防保全工事	事後保全工事	緊急措置等

▲健全性と対策の分類



▲予防保全工事と事後保全(リニューアル)工事の概念図

出典:国土交通省